

小象の会



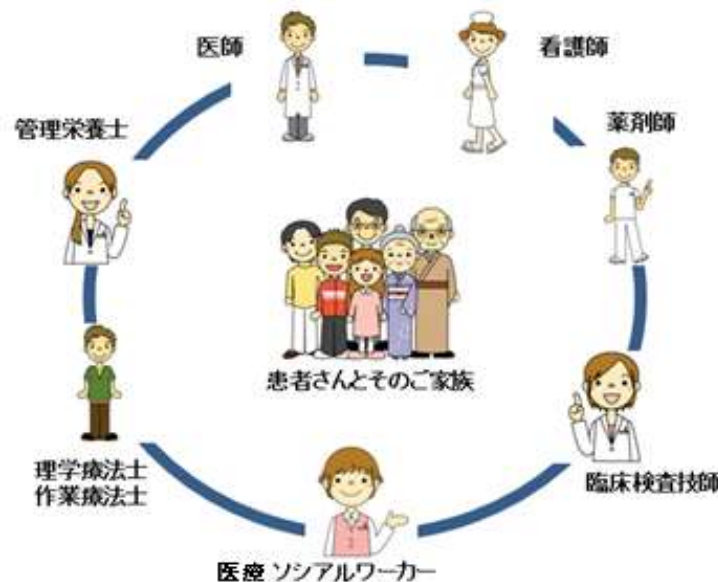
小象の糖尿病通信

糖尿病と上手にお付き合いするために



糖尿病の主治医は自分自身

病気は病院で医者にも治してもらおうものだと思いませんか？糖尿病はちょっと違います。



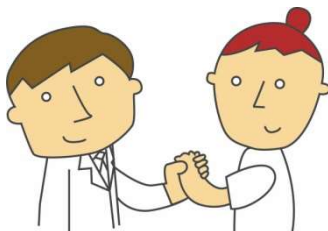
1. 糖尿病のチーム医療

糖尿病、なかでも2型糖尿病はその原因や治療法も様々、そして合併症もとてもたくさんあります。そこで、治療に当たっては医師のみでなく、たくさんのスタッフが患者さんとかかわっています。しかし、その中心にいて、治療を円滑に進める主役は患者さん自身です。スタッフはあくまでもアドバイザーに過ぎません。

2. スタッフそれぞれの役割

☆医師

患者さんそれぞれの病気の程度や、生活の状況、合併症の進行などを考慮に入れ、治療の方針を示していきます。治療の効果が十分上がっているかどうか、合併症をチェックするためのプランなども患者さんと一緒に考えます。よく話し合って治療がうまくいくよう進めましょう。眼科、循環器科、外科、そして歯科など、他分野の医師も、必要に応じて患者さんの治療にあたります。



☆看護師

生活全般に目を配り、服薬や注射の指導を行ったり、体調に不安があるときなどの相談にも応じます。コントロールを悪化させる生活習慣の改善についてもアドバイスします。足病変をチェックしフットケアを行います。

☆薬剤師

糖尿病の薬は内服薬から注射薬までたくさんの種類があります。服薬に当たっての注意点をお知らせしたり、薬についての不安や疑問に答えます。

☆管理栄養士

糖尿病の基本、食事療法についてアドバイスします。頑張り過ぎて長続きしない食事療法では、糖尿病と長くお付き合いできません。患者さんの食生活に合った指導を心がけます。ぜひ一度は栄養相談を受けてください。

☆臨床検査技師

外来受診時の血液検査や24時間持続血糖測定、心電図などの生理検査も担当します。皆さんのデータを

一番先に把握しています。自己血糖測定の機械の管理や疑問にもお答えします。

☆理学療法士、作業療法士

糖尿病の運動療法はとても大切です。体の負担が少なく効果の上がる運動を指導します。また、不幸にして脳梗塞などの合併症が起きてしまった時には、作業療法士や言語療法士も協力してリハビリを行います。

☆医療ソーシャルワーカー

合併症で自立した生活が難しくなった時、高齢で援助が必要になった時など、患者さんと福祉行政をつなぐ懸け橋になります。

3. CDE-J、CDE-Chiba

CDE-Jは日本糖尿病療養指導士のこと。高度で幅広い専門知識をもち、患者さんの糖尿病自己管理を支援するスタッフです。厳しい試験に合格して初めて資格が得られます。またCDE-Chibaは様々な職種に対し、2012年から千葉県糖尿病対策推進会議が認定している資格です。



CDE-Jのバッジ

4. チーム医療の中心は患者さん

糖尿病は生活習慣病です。病院に来るのは1～2カ月に一度だけ。後の時間は患者さん自身で生活を管理しなくてはなりません。薬を飲み、食事や運動に気を付け、糖尿病を悪化させる生活習慣は改善していく必要があります。大変ですがそれだけにやりがいもあり、根気良い努力は必ず報われます。かかりつけの医療機関のスタッフやCDE-J、CDE-Chibaを大いに利用してわからないことを質問し、アドバイスを受けて下さい、きっとお役に立つでしょう。 内科 柳澤 徳山